



日本タンクステン株式会社

様々な産業での長寿命・高機能ニーズに応じた
レアメタル部材などの開発、製造および販売

証券コード
6998

●日経・東証IRフェア2025に出展しました

当社は9月26日・27日の2日間、東京ビッグサイトで開催された「日経・東証IRフェア2025」に出展しました。本イベントは、日本経済新聞社と日本取引所グループが主催する国内最大級のIRイベントです。158社が参加し、1万8,660人の来場者が訪れる中、当社ブースにも多くの個人投資家の皆様にお越しいただき、事業内容や取組みを直接お伝えできる貴重な機会となりました。特集では、当社の出展内容をご紹介します。

KOKORO

意style

第115期中間期 報告書

2025年4月1日～2025年9月30日

 日本タンクステン株式会社

企業理念

Our Corporate Philosophy

日本タングステンは、
世界の人々と従業員の
明るい未来を実現するために

マテリアルからはじまる価値創造に
挑戦し続けます。

常にNo.1を目指し、かけがえのない存在で
あり続けます。

行動規範

Our Way

私たちは、情熱を持って、
失敗を恐れずチャレンジします。

私たちは、当事者意識を持って、
すぐ行動しやり遂げます。

私たちは、相手の立場になって、
期待以上で応えます。

パーパス

Our Purpose



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く
お礼申し上げます。

2025年度は、次期中期経営計画(次期中計)の骨子
を実現するための組織強化や、次期中計の策定を進める
など、非常に重要な1年になると捉えております。この
1年間をかけて次の成長を見据えた足場固めをしっ
かりと行い、サステナブルな成長を目指してまいります。

今後とも、私たち日本タングステングループに対する
変わらぬご理解とご支援の程を、何卒よろしくお願
い申し上げます。

2025年12月

取締役社長 後藤信志

次期中期経営計画の策定に向けて、 組織改正や付加価値創造サイクルの推進等による体制強化を図りながら、 企業価値向上に向けた取組みを継続的に進めてまいります。

Q 当中間期の決算のポイント等について

一部ターゲット市場が低調に推移する中で、原材料の調達コスト増なども重なり、減収減益となりました。

当中間期の経済環境は、企業の設備投資が堅調な中、雇用・所得環境が改善され個人消費も底堅く推移するなど、全体として緩やかに回復しました。世界経済も底堅く推移していますが、米中貿易摩擦や地政学リスクの継続など、先行きは依然として不透明な状況が続いています。

当社グループがターゲットとする市場については、衛生用品機器・医療用部品市場では、医療用途の好調な推移に対し、衛生用品機器は前年同期ほどの勢いに欠ける中で推移しました。半導体・電子部品市場は、データセンター等で使用される大容量ハードディスクドライブの需要が拡大こそ見られないものの堅調に推移しました。また、自動車部品市場は、顧客の生産部材や使用製品仕様の変更の動きを受けて伸び悩み、産業用機器・部品市場は、需要の一服等もあって低調に推移しました。

このような状況の中、当中間期の連結売上高は60億50百万円（前年同期比4.1%減）となりました。損益面では、一部原材料の調達コスト増や、生産性向上のための設備更新に伴う減価償却費の増加等もあり、営業利益は2億97百万円（同25.1%減）、経常利益は4億40百万円（同15.9%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は3億4百万円（同14.2%減）となりました。

Q 通期業績予想や今後の市況予測について

産業用機器・部品市場の低迷を他のターゲット市場でカバーしながら、下期は上期業績と同程度のペースで推移すると見込んでおります。

当社グループがターゲットとする市場では、衛生用品機器・医療用部品市場や、半導体・電子部品市場は堅調な需要が見込まれておりますが、自動車部品市場は、一部の商品で伸び悩むことが想定され、また、産業用機器・部品市場は、需要の一服等もあり、大幅な減少を見込んでおります。

2026年3月期の通期業績予想については、2025年5月に公表した予想値のとおり、連結売上高128億円（前期比3.3%増）、営業利益7億円（同1.6%増）、経常利益9億60百万円（同0.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益7億円（同3.4%増）を計画しております。

上期（当中間期）の業績は当初想定より若干下振れの進捗となりましたが、下期は産業用機器・部品市場の低迷を他のターゲット市場でカバーしながら、上期業績と同程度のペースで推移すると見込んでおります。通期の業績予想から若干乖離する傾向となりますが、今後の受注動向等に注視しながら、業績予想の修正が必要となった場合には速やかに公表いたします。

また、主要原材料であるタンブステンについては、中国の輸出規制対象の拡大に伴い、中国からの輸出に時間を要する状況となっております。一部で代替品の使用によるコストが増加していますが、一定の在庫は確保しており、継続的な生産に影響を及

ばすことはありません。今後、安定した調達に向けて、グループ会社との協働による調達や、新たな仕入先の開拓、リサイクル技術の活用の強化など、継続的な生産に向けた取組みに注力してまいります。

Q 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

対応をアップデートし、引き続き、株主資本コストを上回る資本収益性の向上に努めてまいります。

当社では2025年6月に、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」をアップデートしました。

当社算定の株主資本コストは、株式流動性リスクを加味すると7~9%台であると認識しており、一方で、資本収益性は、好業績時にROE8%台と、株主資本コストを上回ることが可能な水準です。また、PBRは0.5倍程度となっています。

当社グループでは、次期中期経営計画の骨子(2025年2月公表)に基づいて事業部制組織から機能別組織への組織改正を行いました。成長戦略を着実に実行できる体制を高めながらドメイン・コアコンピタンスに基づく事業戦略を定めた次期中期経営計画(2026年春公表予定)の取組みにより、企業価値(PBR)を高めてまいります。

詳細はこちら

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について



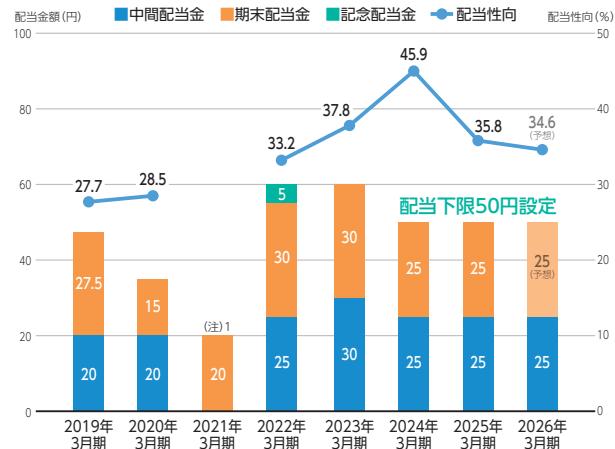
Q 株主還元状況について

1株当たり25円の間配当を実施させていただきました。

当社は、新製品開発を推進するための設備・人材・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、原則として1株当たり年間配当額50円を下限とし、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安とした安定的・継続的な配当を実施するよう努めております。また、1株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。なお、著しい経営環境の変化などの特殊要因により、親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、配当金の見直しを検討するものとします。

このような方針の下、当中間期末では1株当たり25円の配当を実施させていただきました。なお、現時点において期末配当金は、同じく1株当たり25円を予定しております。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 配当金・配当性向の推移



(注)1 2021年3月期は当期純損失であったため配当性向は該当ありません。

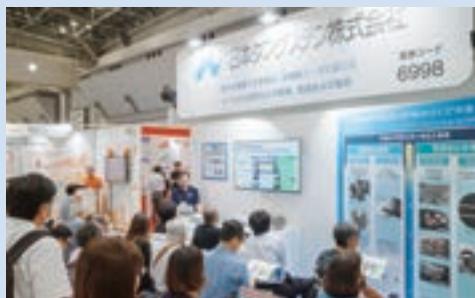
2 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定しております。

国内最大級のIRイベント 「日経・東証IRフェア2025」に出展しました。

「日経・東証IRフェア2025」は、国内最大規模のIR(インベスター・リレーションズ)イベントとして、今年で20回目を迎えました。本年は、東京ビッグサイトでの対面開催とオンライン配信を組み合わせたハイブリッド形式で行われ、出展社数は昨年の80社から158社に拡大したこともあり、多くの個人投資家が来場しました。各社の事業戦略や取組みを紹介し、個人投資家にとっては、直接情報を得られる貴重な機会となり、企業との対話を通じて理解を深める場として非常に盛況でした。



当社ブースでの取組み



今回の出展は、より多くの方との交流を深めるため、ブース面積と説明会の開催回数を2倍に拡大し、また、説明会後には抽選会も交えるなどし、当社ブースには昨年と比べ約3倍の個人投資家にお越しいただきました。また、社名の由来でもあるタングステンを実際に手に取って体験できるコーナーでは、「タングステンってこんなに重いんですね!」といった驚きの声も多く、対話も自然と弾みました。



会社説明会では、当社の事業の強みや成長戦略、株主還元等の施策について紹介しました。また、説明会後の個人投資家との対話では、事業の将来性や原材料調達に関する貴重なご意見やご要望を伺うことができました。

次回の開催では、
さらに多くの方楽しんでいただけるよう工夫してまいります。
ぜひお気軽にお立ち寄りください!

機械部品事業

■衛生用品機器・医療用部品市場

おむつなどの衛生用品製造設備の部品であるNTダイカッターは、新構造ユニットの拡販等により新たな顧客の獲得等があったものの、前年同期に好調だったヨーロッパ向けの販売の反動減や、米国での販売が振るわず、減収となりました。

■半導体・電子部品市場

情報機器関連のHDD用磁気ヘッド基板は、データセンター等で使用される大容量HDDの需要が堅調に推移しており、増収となりました。一方で、電子機器製造用の金型製品は顧客の需要が低調に推移したこと等により、当市場としては減収となりました。

■産業用機器・部品市場

製鉄所向けの耐摩耗部材は、競合品と比べ耐久性の面で評価を得ており、増収となりました。一方で、二軸混練押出機用の金属部品は、顧客での評価が進んでいるものの、前期までの中国向けのまとまった需要が一般したこと等により、当市場としては大幅な減収となりました。

この結果、機械部品事業の売上高は前年同期比13.1%減の32億3千2百万円となり、営業利益は、同41.7%減の2億8千1百万円となりました。

売上高

(単位:百万円)



セグメント利益

(単位:百万円)



電機部品事業

■衛生用品機器・医療用部品市場

医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品は、北米地域向けでは好調な需要増に加え、価格改定の効果もあり増収となりました。また、他の地域においても需要が高まってきており、増収となりました。

■半導体・電子部品市場

半導体製造装置に用いられる給電端子部品が、半導体製造装置の設備投資需要の増加に伴い、増収となりました。

■自動車部品市場

電装部品溶接用の抵抗溶接用電極は、自動車市場顧客の電極需要が増加し、増収となりました。一方で、EVリレー用接点は、米国市場の需要低迷や、顧客の他材種への仕様変更の影響等により減収となったことから、当市場としては減収となりました。

■産業用機器・部品市場

産業用設備向けのブレーカー用電気接点は、前期の在庫調整から回復したことや原材料価格の上昇に伴う価格改定の効果もあり、増収となりました。

この結果、電機部品事業の売上高は前年同期比8.4%増の28億2千8百万円となり、営業利益は、同40.3%増の3億4百万円となりました。

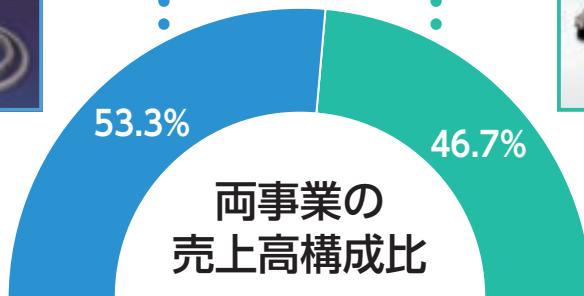
売上高

(単位:百万円)



セグメント利益

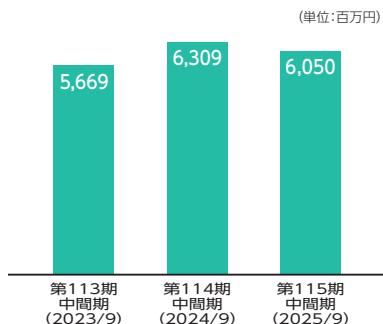
(単位:百万円)



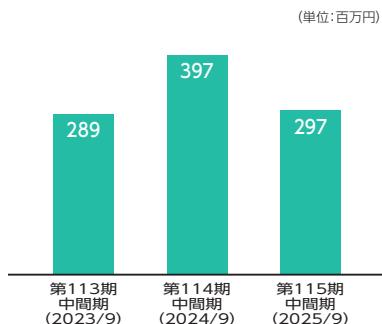
(注)売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額です。

業績等の推移(連結)

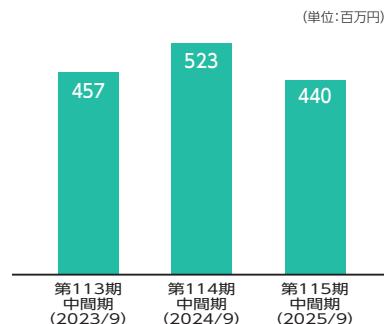
売上高



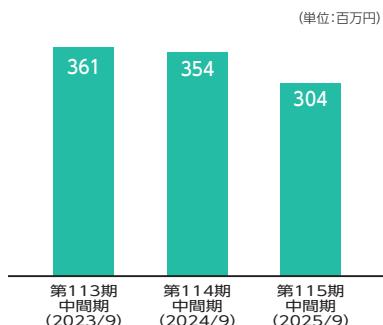
営業利益



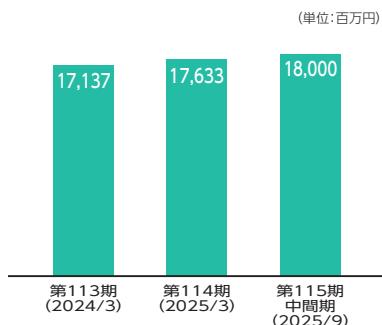
経常利益



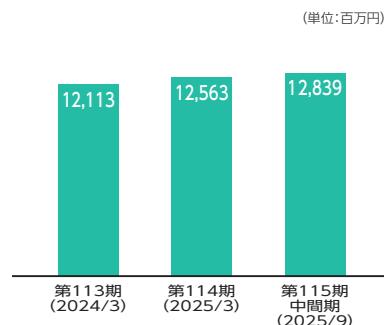
親会社株主に帰属する中間純利益



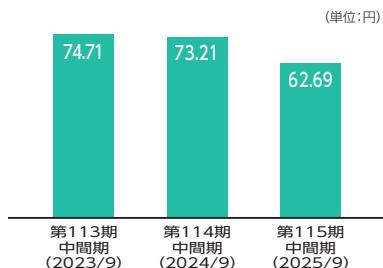
総資産



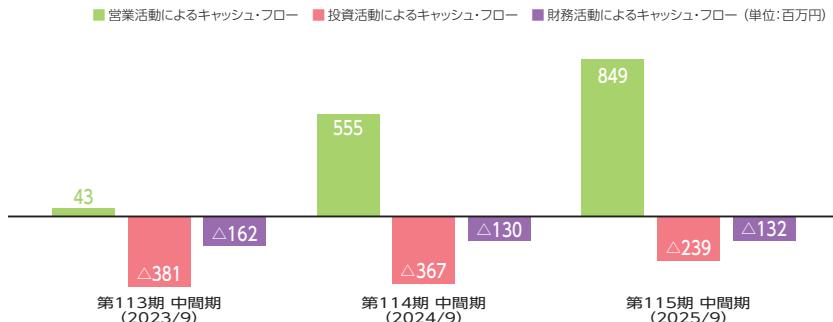
純資産



1株当たり中間純利益



キャッシュ・フローの状況



※当社は2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり中間純利益につきましては過年度に遡及して修正しております。

● 会社の概要

2025年9月30日現在

設立	1931年(昭和6年)4月1日
資本金	25億950万円
従業員数	501名(連結)
本社	福岡市博多区美野島一丁目2番8号
事業所	支店：東京・大阪・東海・九州 工場：基山・飯塚・宇美

役員 2025年9月30日現在

取締役社長	後藤 信志	代表取締役 社長執行役員
取締役	中原 賢治	副社長執行役員 経営企画部担当
取締役	毛利 茂樹	常務執行役員 事業統括責任者(営業本部・製造本部担当)、工場支援部担当
取締役	原口 寿	執行役員 経営管理本部長、調達部担当、コンプライアンス担当
社外取締役	成清 好寛	九州電力株式会社 執行役員
社外取締役	仲 宏敏	
取締役	今里 州一	監査等委員(常勤)
社外取締役	久留 和夫	監査等委員 久留公認会計士事務所代表
社外取締役	小田 昌彦	監査等委員
社外取締役	杉原 知佳	監査等委員 三浦・奥田・杉原法律事務所共同経営弁護士
	味冨 晋三	執行役員 技術開発本部長、品質保証センター担当

関係会社 ■ 連結子会社 ● 持分法適用関連会社

国内	■ 株式会社福岡機器製作所 ■ 株式会社昭和電気接点工業所
中国	■ 上海恩梯三義実業发展有限公司
アメリカ	■ NIPPON TUNGSTEN USA, INC.
イタリア	■ NIPPON TUNGSTEN EUROPE S.r.l.
タイ	● SV NITTAN CO., LTD.

株主メモ

決算期	3月31日
基準日	定時株主総会、期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要あるときはあらかじめ公告して定めます。
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京(スタンダード市場)、福岡
証券コード	6998
公告方法	当社のホームページ(https://www.nittan.co.jp/)に掲載します。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

● 株式の状況

2025年9月30日現在

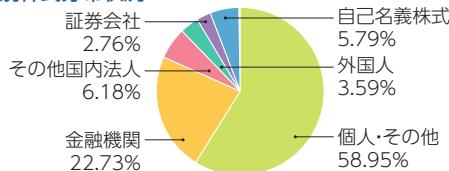
発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	5,155,520株
単元株式数	100株
株主総数	3,977名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社口)	333,330	6.86
株式会社福岡銀行	214,524	4.42
日本タングステン取引先持株会	211,000	4.34
日本タングステン従業員持株会	198,564	4.09
みずほ信託銀行株式会社	128,600	2.65
明治安田生命保険相互会社	120,340	2.48
株式会社西日本シティ銀行	101,834	2.10
株式会社佐賀銀行	100,000	2.06
HMG JAPAN FUND	93,500	1.92
宇部マテリアルズ株式会社	80,000	1.65

- 上記のほか、自己株式を298,339株保有しております。
- 持株比率は自己株式(298,339株)を控除して計算しております。
- 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社口)の持株数333,330株は、九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社から同信託銀行へ信託設定された信託財産であります。信託契約上当該株式の議決権は九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社が留保しております。

所有者別株式分布状況



株式事務手続きに関するお問い合わせ先

● 証券会社等に口座をお持ちの株主さま

住所・氏名等、届出事項の変更 配当金受取方法の変更 単元未満株式の買取請求 等	お取引の証券会社等までお問い合わせください。
未受領の配当金の お受取について	下記株主名簿管理人(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。

● 特別口座をお持ちの株主さま

各種手続き等	下記特別口座管理機関(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
--------	---------------------------------------

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

みずほ信託銀行 証券代行部

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

☎ 0120-288-324 (受付時間 土・日・祝日を除く9:00~17:00)